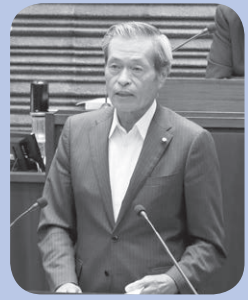


白坂 均 議員



- (一般質問)
- 1 住宅宿泊事業法に基づいて
 - 2 農業用ドローンについて

空き家を利用した民泊事業の展開を!

問

住宅宿泊事業法が成立し、民泊の法的な位置付けが明確化され、国策として後押しされている中、本市での民泊事業者は僅か3件であり、未開拓の状態である。

民泊は、問題点がクローズアップされがちであるが、滞在型観光客を増やすために必要な魅力ある宿泊施設の形態となりえ、また、空き家を民泊施設へ転換することで空き家対策の一助にもなると考えるが、本市は今後、民泊事業にどう取り組むのか。

答

観光庁が2か月ごとに発表している宿泊実績によると、住宅宿泊事業者数及び宿泊者数は増加を続けており、外国人観光客をはじめとする宿泊ニーズの多様化を背景に、本市においても増加傾向で推移すると予想される。また、従来とは異なるニーズにより新しい需要が喚起され、観光消費額の増加や交流人口拡大などに寄与すると考えられる。しかし、住宅宿泊事業者の増加に伴い、ごみ出しや騒音などの近隣トラブルや、既存宿泊施設との競合が発生する可能性もあることから、住宅宿泊事業が市民生活などに与える影響を注視しつつ、今後も観光による宿泊客の増加に努めたい。

井上 浩二 議員



- (一般質問)
- 1 上水道事業について

小松地区の

水源の確保を!

問

平成19年度に実施した小松地区における水源調査の結果と、今後の実施計画はどのようになっているのか。また、過去に水源確保は地域内で行うべきとの見解が示されているが、小松地区の脆弱な水事情の解消に向け、どのように取り組もうと考えているのか。

答

平成19年度にやすらぎ苑西側からJRR予讃線にかけて探査した結果、深度30メートル付近に帯水層があり、水量が豊富であるとの調査結果が出た。市としては、ここからの取水が望ましいと考えているため、今後、地元関係者の理解と協力が得られ、水源調査の実施計画を策定し、揚水試験や水質試験を行いたい。

小松地区の水源確保に向けた取組としては、平成24年度に安井水源地の老朽化した井戸を改良し、水量を確保している。また、他の地区から小松地区への送水は、関係者の

今井 廣一 議員



- (一般質問)
- 1 中学校における運動部活動について

中学校における運動部活動の存続を!

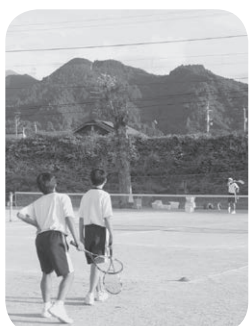
問

少子化の影響に伴う部員の減少により、団体競技においては大会に参加できず、部の存続自体が危ぶまれている状況が深刻化している。休部や新入部員募集の停

止、大会に参加するための合同チームの編成などを行っているが、現状はどのようになっているのか。また、中学校における部活動は、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感を育成するとともに、学校生活を豊かにするものであると認識しているが、現状を踏まえ、今後どういった対策を考えているのか。

答

令和元年度は休部が1チーム、合同チームを編成しているのが1チームある。中学生のときにスポーツに親しむことは、たいへん重要であると考え、生徒数は減少傾向にあり、生徒一人一人の希望に応じた部の設置や指導者の配置は難しいのが現状である。生徒がスポーツに親しむ機会を充実させるため、学校以外のクラブチームなどの情報を広く収集し、提供していきたい。



中学校部活動の様子